

【 開発の経緯～リュウキュウベンケイを後世に残すために～】

沖縄美ら島財団がリュウキュウベンケイの調査を始めたのは今から 16 年ほど前になります。黒船とともに来航したペリー提督らが琉球から持ち帰った植物標本の中にリュウキュウベンケイを見つけたことに端を発します。調査当時は植物標本として形が残るのみで、リュウキュウベンケイが沖縄に存在しているのか、誰も分からない状態になっていました。「リュウキュウベンケイは沖縄に残っているのだろうか。」まだ見ぬ植物に期待を膨らませて私たちは県内を探し始めました。過去の記録を辿り、県内各地を歩き渡り、やっとのことで宮古諸島にてリュウキュウベンケイを見つけたことができたのです。その後、新聞にて情報提供を呼びかけたところ、多くの県民の方々からの情報も寄せられました。

再発見されたリュウキュウベンケイは数少なく、絶滅寸前であったことから保全活動に取り組んでいくことを決意しました。幸い、挿し木で容易に株を増やすことができました。しかし、単に株を増やすだけではリュウキュウベンケイを後世に残すことはできません。「なぜ」守らなければならないのかを明確にしなければ、いつか人々から忘れられてしまいます。そこで私たちはリュウキュウベンケイのもつ可能性について考えました。リュウキュウベンケイはすりと背が高く、美しい花を咲かせます。この特徴をうまく生かした切花を作ることができれば、新たな花卉品目として利用され、園芸振興につなげることができます。リュウキュウベンケイが人の暮らしに役立つことが明確になれば、その存在の重要性について多くの人々と共有でき、末永く守り継がれるようになります。

切花用のリュウキュウベンケイを作るため、私たちは千葉大学園芸学部植物細胞工学研究室と品種改良の共同研究を行いました。2003 年から始められたこの研究は、様々な近縁種との交配を繰り返し、良いものだけを選抜していく方法で行われました。そしてリュウキュウベンケイと、園芸品種として従来から普及しているカランコエを交配した「ちゅらら」シリーズを開発しました。その中でオレンジ色の八重の花を咲かせる「ちゅららダブル」など 2 品種が 2014 年 9 月に品種登録されました。品種登録は植物における特許のようなもので、新しくできた品種が世の中で認められ、普及する上でなくてはならないものです。品種登録されたことにより、園芸農家が「ちゅららダブル」を生産することが可能になります。また「ちゅららダブル」の他にも、ピンクやイエローの花を咲かせる仲間も登録申請中であり、2016 年頃には登録される予定です。

「ちゅらら」シリーズは沖縄にリュウキュウベンケイがあったからこそ生まれた美しい花です。近年中には花屋などにも広く流通される見込みです。「ちゅらら」シリーズをお手に取られた際は、沖縄の貴重な自然を感じ取っていただければ幸いです。



再発見されたリュウキュウベンケイ



リュウキュウベンケイ（左）と従来からあるカランコエ（右）



リュウキュウベンケイをもとに作り出された「ちゅらら」シリーズ